

3-1 白バラ研究所

3年1組 白須 沙也香

1 単元について

活動に向かう子どもの思いや願い

生活科のまちたんけんでは、自分たちが生活する折本の町を歩き、様々な場所や人と接していく中で、それらが自分の生活と関わっていることに気付き、地域に親しみをもつことができた。

自ら課題を見つけ、それらを追究するための方法を考え、積極的に提案することはできるが、調べて分かったことをまとめたり、そこから考えたことを自分の言葉で表現したりすることに苦手意識をもっている。

来年度、折本小学校が70周年を迎えるということに対して、その当時の折本のことを知りたいという思いや、自分たちの活動を学校や地域の人たちに広め、その活動が70周年のお祝いにつながればいいという思いをもっている。

身に付けさせたい力と材について

子どもたちがバラを育てる活動を進めていく中で、地域の方々や専門的な知識や経験をもった人の協力が必要になってくると考える。繰り返し取材を行うことで、折本のまちがもつ歴史について知識を深めたり、植物を育てる人たちの様々な取り組みを知って、行っている方の思いを感じとったりすることができると考えている。

また、はまみらいや野いばらを実際に育てていく際には、野外での栽培活動を通して、季節ごとの虫や土の種類など、栽培している品種以外にも自然から多くのことを学ぶことができると考えている。

70周年を迎えるにあたって、自分たちの活動を学校全体や地域に広めることで、自分たちがこの折本のまちの一員であることを自覚するとともに、自分以外の人のため、未来のために活動することの喜びを感じることができるようになりたい。

単元目標

「野いばらがデザインされている折本小の校章にこめられた思いを学校や地域の人に知ってもらいたい」という思いの実現に向けて、校内でバラを育てる活動を通して、自分たちの地域を支えてくださっている方々の思いを知るとともに、地域の一員として、70年前に折本に咲いていた野いばらを再びまちに広め、当時の風景を取り戻し、まちをより豊かにするための方法を考え、行動しようとする。

本単元における探究課題と育てたい資質・能力

資質・能力 探究課題	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
地域における自然や植物の成長の特徴や魅力と、まちに住む方々の地域を大切にしたいという思いや取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 地域には、自然、動植物の成長、資源などがあり、それぞれに特徴や魅力があること。 自然と人間が共存していくためには、環境のために自分ができることを知り、日ごろから心がけて生活することが必要であると分かる。 地域には、様々な魅力や特徴があり、それを捉えることに価値があり、地域活性化にもつながることが分かる。 まちづくりや地域活性化のために取り組んでいる人々には、思いや願いがあり、それを何らかの形で実現しようとして行動していることが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> まちの観察やまちの方々へのインタビューから、校章についてやまちの歴史等をとらえ、そのことを発信するために必要な取り組みについて、見通しをもつ。 お寺の住職の方やバラの専門的な知識をもつ方、地域の方々さんから話を聞き、集めた情報を「折本の歴史」や「バラについて」、「未来に向けての取り組み」等の視点で分類し整理する。 集めた情報をもとに、実際にバラを栽培していくなかで、成長の仕方に応じて様々な方法を試し、その良さを捉える。 収集した情報をもとに、見た人が興味をもつ情報は何かを考え、情報を取捨選択し、表現の方法を工夫しながら発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> バラを栽培する活動を通して、まちに住む方々やお寺の住職の方、バラの専門的な知識をもつ方々と関わりながら、バラを通じて70周年のお祝いをするとともに、人と人とのつながりを大切にしようとする。 バラの栽培を成功させ、地域に広めるため、バラの専門的な知識をもつ方と積極的に関わったりインタビューを行ったりする。 折本の校章について分かったことや、昔のまちの様子などを多くの人に伝えられるように、友達と協力して取材や資料集めを繰り返していき、より良い方法を追求しようとする。 折本小の校章や歴史について広めたりバラの輪を地域に広めたりすることで、まちの活性化に役立つことができた自分自身に気付き、地域の一員としてまちの活性化のために継続してできることを考え続けようとする。

2 単元展開

3-1 白バラ研究所

(全80時間 総合70 国語5 社会5)

1 校章のデザインになった野いばらは今でも地域に残っているのだろうか？

(理科 1時間 総合10時間 社会 2時間)

- 折本小学校の校章のデザインになった野いばらについて調べ、探しに行く。
- 校章の考案者が住んでいたお寺に行って野いばらについて話を聞く。

今の時期は花が咲いていないから、よく分からないな。校章のデザインを考えた方はお寺の住職だったらいいよ。その人に話を聞いてみると、昔は学区に野いばらがたくさん自生していたことや、子どもたちに野いばらのように清楚でたくましく育ててほしいという願いがこめられていることなどが分かったけど、野いばらは見かけなくなってしまうと言われた。折本のどこかにまだ残っていないかな。地域の方から教えてもらった情報をもとにもう一度探してみよう。

2 自分たちが見つけた棘のある植物は本物の野いばらなのかな？ (総合10時間 国語2時間)

- 自分たちが集めた資料と植物を見比べ、調べる。
- 見つけた場所の持ち主の方へ行って話を聞く。
- ばらの専門家に会って本物の野いばらなのか確かめる。

学校の上の畑の近くで見つけた棘のある植物と、今までに集めた資料を見比べてみると、似ているところがあるね。これは野いばらかもしれないから、土地の持ち主の方へ話を聞いてみよう。昔からここに生えていたことは分かったけど、野いばらかどうかは分からなかったね。バラの専門家の方に話を聞いてみよう。横浜市に届いた「はまみらい」は横浜市のシンボルの花らしいよ。この花も自分たちで育ててみたいな。

3 学校にバラ園を作って、野いばらや「はまみらい」の特徴を知ってもらい、それぞれの花にこめられた思いを学校のみんなや地域の方々に知ってもらおう。

(総合16時間)

- 自然に生えている野いばらを学校で増やし、育てるための方法を調べる。
- 野いばらと「はまみらい」を植えて、誰にどんなことを伝えるか考える。

バラの専門的な知識をもつ方から、自分たちが見つけた棘のある植物が野いばらだということを教えてもらったけど、どうしたら学校の花壇で育てることができるのかな。枝からバラを再生できることが分かったけど、枝を切ってもいいか、持ち主に許可をもらわなきゃね。挿し木の方法をバラの専門家の方に教えてもらおう。「野いばら」に込められた意味を、地域の方にもインタビューして、もう一度よく考えてみよう。「はまみらい」を届けてくれた方にもインタビューして、「はまみらい」に込められた思いを聞こう。学校のシンボルの野いばらと、横浜市のシンボルの「はまみらい」を育てて、学校にバラ園を作ろう。

4 地域に野いばらを増やして、バラの輪を広げよう。

(総合20時間 社会5時間)

(※本小単元)

自分たちはバラを通じて何を伝えたいのか、考えをまとめよう。その思いをどのようにして伝えたら、より多くの人に届けることができるかな。お世話になった人たちにバラを届けたいな。地域の人たちにもバラを届けて、70年前の折本の景色を取り戻そうよ。折本のまちにバラを増やそう。野いばらの挿し木を地域の方たちに配ろう。自分たちが見つけたバラや配ったバラの情報を地図にかいてバラマップを作ろう。まちの人たちにバラを好きになってもらえたらいいな。

5 バラの輪をつなげよう。

(総合20時間 社会5時間)

- 「3-1 白バラ研究所」今後のことについて話し合う。

学校に野いばらは元気に育っているし、地域に苗を配ることができたね。これで70年前の折本を取り戻せたかな。この活動を続けていかなければ、簡単には取り戻せないと思うな。4年生になったらクラスが変わっちゃうけど、どうしよう。クラスが変わっても、学校に咲いているバラは私たちが大切に育てていきたいな。クラスが違っても難しいよ。でも、命があるものだから、途中でやめるのは無責任だよ。環境委員にも相談して、学校全体で育てていけたらいいね。バラの和を未来につないでいこう。

3 小単元の構想

(1) 本小単元で育てたい資質能力

知識・技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
<p>・バラを育てる活動を通して、植物の成長の特徴や魅力を知るとともに、地域の方々や専門的な知識をもった方たちによって活動が支えられていたことに気付く。</p>	<p>・野いばらを探す活動を通して得た情報や、今後どのようにしてバラの輪を広めていくかについて話し合い、自分たちの活動の意味やバラがもつ価値を分析する。</p>	<p>・バラの栽培を成功させ、地域に広めるため、バラの専門的な知識をもつ方と積極的に関わったりインタビューを行ったりする。</p>

(2) 小単元目標

「折本小の校章のことを学校や地域の人に知ってもらいたい」という思いの実現に向けて、折本小の校章のモチーフとなった野いばらを探し、栽培する活動を通して、地域の方々やバラの専門的な知識をもった方に教えていただきながら挿し木の方法を学び、植物の成長の特徴や魅力を知るとともに、これまで活動を支えてくれた方々に感謝の思いをもって、これからも折本のまちのためにできることを考えていこうとする。

(3) 小単元展開

学習課題	学習活動	期待する変容
-------------	-------------	---------------

Ⅲ 学校にバラ園を作って、野いばらや「はまみらい」の特徴を知ってもらい、それぞれの花にこめられた思いを学校のみんなや地域の方々知ってもらおう。 ⑩

野いばらを学校で育てるための方法を考えよう ④

挿し木の方法を調べる。

- ・見つけたバラは野いばらだということが分かったけど、どうやったら学校で育てられるかな。
- ・枝から植物を人の力で繁殖させる「挿し木」という方法があるみたいだよ。
- ・誰か実際にやったことがある人はいないかな。
- ・地域の〇〇さんに、どのようにして行ったのか話を聞いてみよう。

野いばらを分けてもらうための許可をもらおう ③

野いばらが咲いていた土地の持ち主の方に、野いばらを分けてもらうための許可をもらおう。

- ・挿し木をすれば、野いばらを学校で育てることができるとことが分かったけど、野いばらを分けてもらえるかな。
- ・土地の持ち主の方に会って、お願いしてみよう。
- ・分けてくれると言ってもらえたよ。
- ・あの野いばらは何十年も前からあの場所に生えていたと言っていたね。

挿し木をして、学校で野いばらを育てよう ④

教えてもらったことをもとに、挿し木をして学校で野いばらを育てる。

- ・挿し木に必要なものを調べてみたら、専用の土が必要だということが分かったよ。どうしたら手に入れられるのか、校長先生に相談してみよう。
- ・道具はそろったから、野いばらの枝を切りに行こう。ここの枝は、挿し木によさそうだね。
- ・バラの専門家の新井さんにアドバイスをもらって、自分たちでやってみよう。
- ・挿し木が成功するといいな。
- ・挿し木が成功したよ。野いばらを分けてくれた齊藤さんと、挿し木の方法を教えてくれた新井さんに感謝の気持ちを伝えたいな。
- ・これで学校の校章のモチーフになった野いばらを学校で育てることができね。
- ・どこに植えようかな。全校のみんなにも意見を聞きたいな。

バラ園を通して伝えたいことを考えよう ⑤

学校に作ったバラ園を通して誰に何を伝えるか考える。


- ・全校のみんなにバラのことを知ってほしいな。
- ・横浜市のシンボルの「はまみらい」と学校の校章のモチーフになった野いばらに込められた思いを、もっと深く調べようよ。
- ・「はまみらい」を届けてくれた方にインタビューに行こうよ。
- ・折本小の校章が作られた60年前に学校に通っていた人に話を聞けないかな。
- ・二つのバラには、たくさんの人たちの思いが込められているんだね。
- ・来年の70周年のお祝いに向けて、バラに込められた思いとともにバラの輪を広げて、再び折本のまちにバラを増やそうよ。

3 本時の学習 (11/16 時)

(1) 本時目標

野いばらの魅力や伝えたいことを話し合うことを通して、自分たちの取り組みの意味を理解するとともに、協力してくださった方々や地域の方々に恩返しする方法を考えることができる。

(2) 本時の展開

予想される子どもの活動と反応	☆手立て ★評価規準
<p style="text-align: center; border: 1px dashed black; padding: 5px;">野いばらの魅力や伝えたいことは何だろう。</p> <p>①野いばらの魅力や伝えたいことについて話し合う。</p> <p style="text-align: center;">【野いばらの魅力】</p> <p>◎野いばらの花について (美しい、かわいらしい、ふつうのバラに見えない) ◎野いばらの性質について (生命力が強い、丈夫、台木として利用される)</p> <p style="text-align: center;">【折本小の校章とのつながり】</p> <p>◎校章にこめられた思い (なぜ野いばらを選ばれたのか) ◎校章が作られた創立10周年のときの当時の様子</p> <p>→70周年を迎える折本小の子どもたちに知っておいてほしい</p> <p style="text-align: center;">【野いばらと地域とのつながり】</p> <p>◎今はほとんど咲いていない、貴重 (咲いていない理由) ◎野いばらの枝を分けてくれた齋藤さん ◎折本小がまだ西原公園にあったときの折本の様子を話してくれた寺島さん ◎50周年記念誌の表紙の野いばらを撮影した齋藤さん</p> <p style="text-align: center;">【野いばらの育て方について】</p> <p>◎植替えや剪定の仕方を教えてくれた技術員さん ◎剪定の仕方や挿し木の方法を教えてくれたサカタのタネの新井さん ◎調べるときに協力してくれた家族</p> <p style="text-align: center;"></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分たちがバラを育てると決めてから、たくさんの人たちが協力してくれた。多くの人の支えがあって、自分たちの願いが実現しているんだ。恩返しをしていきたい。</p> <p style="text-align: center; border: 1px dashed black; padding: 5px;">恩返しをするために、これからどうしていけばいいのか？</p> <p>②自分たちのこれからの活動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・今まで協力してくれた人たちのためにも、野いばらを学校に咲かせたいな。・地域の人にも野いばらを配って、学校のみんなや地域のみんなに野いばらの魅力を知ってもらいたいな。・野いばらが広がれば、昔の折本の美しい景色を取り戻すことができるかもしれない。・バラの輪を広めることで、折本小やまちの歴史を知るきっかけにもなると思う。・もう少し、地域の人や専門的な知識をもつ人に話を聞いて、バラのことや当時の折本について分かりやすく伝えていきたいな。 <p>③話し合っ考えたことをもとに、次の時間からの取組について考え、振り返りをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none">・もう一度地域に出て、野いばらや昔の折本の話聞く。・野いばらに詳しくなるために、専門家の新井さんに話を聞く。	<p>☆ 黒板で子どもの発言を整理する際に、多くの子どもたちが達成感を感じ、自分たちの目的に達することができたと感じている事実を可視化するために、発言が多い事実はアンダーライン等で強調して表すようにする。</p> <p>☆ 恩返しするための方法について考えることができるように、4人組で話し合う時間をとる。</p> <p>★協力してくださった方々や地域の方々に恩返しするために、自分たちの野いばらを広める活動をどのように進めていけばいいか、自分の思いをもって語るができる。 【発言・学習カード】</p>

